
ある朝、桃色の小屋の前で

にしんももこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある朝、桃色の小屋の前で

【Nコード】

N0189B

【作者名】

にしんももこ

【あらすじ】

彼女がいなくなったから、私は考えることをやめられない。

（前書き）

タイトル変更しました。

アパートの脇には小さな小屋があった。

101号室に隣接したその小屋は、きれいな桃色のペンキが塗られた簡易トイレほどの建物で、馬をきれいに折りたたんでやっと一頭入るほどの大きさだ。

101号室にだけ付いているこの小屋がいったい何を意味するのか私にはまったくわからない。

いったい誰が何のために、このような小屋を101号室に隣接して建てなければいけなかったのか。

私はある瞬間から、またある瞬間までこの小屋の事が頭から離れなくなってしまった。

もうずいぶん前から習慣になっている朝のジョギングから帰ってきて、この小屋の前で一息ついていると、小屋の中から何かの音が聞こえてきた。

それはふくろろつの鳴き声のようでもあったし、老婆のうめき声のようでもあった。

そしてそれは2回聞こえたかと思うと、永遠に沈黙した。

決壊したダムに飲み込まれた豊かな村のように、確かに永遠に沈黙したのだ。

顔を近づけてみると、閉ざされたアルミニウムの扉の奥からは、コナツツの香りが微かにした。

ややムラのある塗り方の桃色の壁は、クモ一匹の侵入も許さないように、厚く、執拗に塗り固められている。

そして扉の脇に「シェイクスピア」と小さな頼りない字で書かれていた。

仕事から帰ってきた彼女にそのことを話すと、

「そのシェイクスピアの小屋について考えることが、あなたにとっていったい何の意味があるの」と、伝線したパンティーストッキングを気にしながら、めんどくさそうにそう答えた。

彼女は経済とパスタの種類に詳しく、何についてもloss and gainで考える頭の良い女性だった。

そう言われてみると私がその小屋について考えることは、彼女がパスタを茹でるときに入れる、一つまみの塩ほども意味はないことのように思えた。

そして私はそれきりその小屋について考えるのをやめてしまった。

その後何回もの引越しを繰り返し、あの小屋の付いたアパートが何処の町にあったのかさえも忘れてしまっていた。

頭の良い彼女に言わせると、私はもともと記憶が極端に偏っているようだ。

こうやって私が、桃色の小屋の事を思い出したのは、今私の住んでいる部屋に、あの桃色の小屋があたりまえのようにちょこんと付いていていたからだ。

あのときの小屋と同じ小屋なのだろうか。

101号室の窓から見える長い首都高速道路や、ジャングルの蔭のように張り巡らせた電線にはまったく言って良いほどに覚えがない。

確かなことは、私の部屋に隣接する桃色の小屋には、「シェイクスピア」の文字が書かれているということだけだ。

外から見たときにはわからなかったが、101号室と小屋は直結しているようで、部屋の隅には小屋に続くのであろうアルミの扉がしっかりと閉まっている。

そうするとこの小屋には扉が二つあるらしい。

私はまたこの小屋について考えをめぐらせる他なさそうである。
なぜなら、電線したパンティーストッキングを穿いた、あの頭の良
い女性は、もう仕事から帰ってこないのだ。

この小屋の中では、シェイクスピアという名のおとなしく美しい馬
が、丁寧に折りたたまれて、私が扉を開くのを待っているのもし
れない。

それとも誕生日の夫の為に、老女がココナッツ入りのシーフードカ
レーの下準備に精を出しているのだろうか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0189b/>

ある朝、桃色の小屋の前で

2010年11月12日07時22分発行